

第7章 その他特記事項

1 各専攻

(1) 数学専攻

○日本数学会・市民講演会開催

・平成26年9月25日～9月28日に「日本数学会2014年度秋季総合分科会」を広島大学にて開催した。阿賀岡芳夫教授が大会委員長を、作間誠教授が実行委員長を務め、田丸博士教授、若木宏文教授、滝本和広准教授を加えたメンバーで実行委員会を構成し、広島大学の数学系教職員および大学院生・学部生が開催に協力した。参加者は約1,000名。

・日本数学会最終日の平成26年9月28日に市民講演会を開催した。小林亮教授（数理分子生命理学専攻）が「単細胞が教えてくれることー粘菌からロボットへ」、木村俊一教授が「数学実験！」というタイトルでそれぞれ講演を行った。

○プレスリリース・メディア報道

・木村俊一教授がBSフジ「ガリレオX 黄金比はウツクシイか？ Φ をめぐる真実」に出演（平成27年3月22日）

○Hiroshima Mathematical Journal

数学専攻は数理分子生命理学専攻数理計算理学講座と共に国際数学雑誌 Hiroshima Mathematical Journal (HMJ) を発行している。昭和5年発刊の理学部紀要に始まり、昭和36年に数学部門が独立し、その後昭和46年より現在の名称となった。1巻は3号よりなり、平成26年度は44巻である。発行部数750で、世界各国の雑誌と交換されている。平成18年4月から Euclid プロジェクトにも参加し、昭和36年以降の全雑誌の電子ジャーナル版をオープンアクセス雑誌として公開している。

○数学図書室

数学図書室には、約5万冊の蔵書があり、雑誌だけでも約900種が所蔵されている。これらは、数学科および数学専攻の学生、教員の教育・研究に役立つばかりでなく、学内にも公開され利用されている。

○学術団体からの受賞実績

- ・松本 眞，第46回（平成25年度）市村学術賞功績賞，平成26年4月
- ・松本 眞，第3回藤原洋数理科学賞・大賞，平成26年10月

(2) 物理科学専攻

○学術団体等からの受賞実績等

- [1] 河野貴文：5th ASTRO-H Summer School ポスター賞受賞
- [2] 枝寛育実：5th ASTRO-H Summer School ポスター賞受賞
- [3] 川村翔人：エクセレント・スチューデント・スカラシップ（2014年12月24日，広島大学）
- [4] 竹田翔一：Excellent Presentation Award for Students 学生優秀プレゼンテーション賞
The 10th Japan-Korea Conference on Ferroelectrics (JKC-FE10) (2014年8月17-20日)
- [5] 川上修平：Excellent Presentation Award for Students 学生優秀プレゼンテーション賞
The 10th Japan-Korea Conference on Ferroelectrics (JKC-FE10) (2014年8月17-20日)
- [6] 引地奈津子：Poster Presentation Award; The Summer School on Ferroelectricity
(Future Ferroelectrics 2014) (2014年8月20-22日)
- [7] 川上修平：第28回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム，学生発表賞
- [8] 藤井香奈子：公益社団法人日本金属学会「水素化物に関わる次世代学術・応用展開研究会」

優秀ポスター賞

- [9] 水流大地：Best Oral Presentation Award; 2014 Japan-Korea Student Workshop, (Hiroshima University & Pusan National University, 11-13 July, 2014, Higashi-Hiroshima, Japan.)
- [10] 梅本崇之：Best Poster Presentation Award, 2014 Japan-Korea Student Workshop, (Hiroshima University & Pusan National University, 11-13 July, 2014, Higashi-Hiroshima, Japan.)
- [11] 松尾光一：Top Poster Award, Division of Physical Chemistry, 5th European Association For Chemical and Molecular Sciences (EuCheMS), Chair of EuCheMS Scientific Committee (4th September, 2014)

(3) 化学専攻

- 量子生命科学プロジェクト研究センター (Center for Quantum Life Sciences (QuLiS))
センター長 理学研究科化学専攻・教授・相田美砂子
メンバー 常勤教員15名 (所属部局：理学研究科化学専攻・同数理分子生命理学専攻・医歯薬学総合研究科・先端物質科学研究科・工学研究院)；客員研究員3名

〈施設の概要〉

膨大化しつつあるライフサイエンス分野の情報から有益な概念を抽出するためには、IT技術を駆使することが必須であり、また、従来の大学に根強く残っている既成の枠にとらわれることなく、複合領域の研究者の自由な連携が必須である。本センターは、そのような研究と人材養成を推進するために平成15年4月に設立した。

〈活動状況〉

1) 活動場所 理学研究科共用スペース (B102室)

2) 活動内容

- ①ナノテク・バイオ・IT 融合教育プログラムのアドバンストコースの推進。蛋白質等の生体高分子の構造や機能に関して、理論と実験の両面からの研究を進めた。
- ②「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の推進母体として、博士人材を育成。
- ③「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」『実験・理論・合成の連携グループによる次世代機能性分子創出のための海外共同研究』の推進母体として、学生を海外に派遣し、共同研究を推進した。
- ④ The 11th Nano Bio Info Chemistry Symposium (平成26年12月13日 (土)) を主催。学生以外の参加者の投票により、The Best Student Presentation Award (3名) と、Student Award (3名) を選定し、表彰した。

○Chem サロン

Chem サロンは、いろいろな研究室の研究活動の紹介や化学関係教員・学生の交流の場を提供するために平成3年度より開始された。数理分子生命理学研究科 (化学系) と共催で開催している。平成26年度の世話人は高口博志准教授である。

平成26年度の講師と題目を次にあげる。

- ・平成26年度第1回『フォトクロミズム ―光によって物性が変わる分子―』
2014年6月16日 (月) 波多野 さや佳 (化学専攻分子反応化学講座)
- ・平成26年度第2回『Ways of Chemical and Physical Influence on Spin-Crossover-Like Phenomenon in Cu (II) -Nitroxide Complexes』
2014年11月17日 (月) Ksenia Maryunina (化学専攻分子構造化学講座)

○広島大学研究拠点

本学のインキュベーション研究拠点（7件）の一つとして、「キラル物性研究拠点」（拠点リーダー理学研究科化学専攻・教授・井上克也）が認定された。（2014年5月13日）

(4) 生物科学専攻

○学術団体等からの受賞実績等

- ・三島 由佳 中国四国植物学会優秀発表賞ポスター発表部門（H26.5.10）
- ・庄田佐知子 中国四国植物学会優秀発表賞ポスター発表部門（H26.5.10）
- ・武藤 彰彦 日本遺伝学会第86回大会（2014年度）Best Papers（BP）賞（H26.12.24）
- ・廣瀬健太郎 理学研究科長表彰（H26.3.23）
- ・池谷 淳 理学部長表彰（H26.3.23）

○産学官連携実績

細谷浩史

- ・広島県教育委員会広島県教育センター主催 第18回（2014）教材生物バザール参加

坪田博美

- ・広島県保健協会共同研究（2006-）広島県廿日市市・広島県広島市（気生藻類の分子系統学的研究）

- ・国立科学博物館共同研究（2014-）茨城県つくば市（地衣共生藻類の分子系統学的研究）

柏木昭彦・柏木啓子・花田秀樹・鈴木賢一・鈴木 厚・古野伸明・田澤一朗・倉林 敦・中島圭介・竹林公子・小林里美・竹中純子・杉原麻美・山本 卓・住田正幸

- ・第61回日本実験動物学会総会，第48回日本実験動物学会技術者協会総会 日本動物科学技術さっぽろ2014におけるナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ポスター展示「高品質な近交系ネッタイツメガエルを用いた生物学の研究」（2014年5月，札幌コンベンションセンター，札幌市）

柏木昭彦・柏木啓子・花田秀樹・鈴木賢一・鈴木 厚・古野伸明・田澤一朗・倉林 敦・中島圭介・竹林公子・小林里美・竹中純子・杉原麻美・山本 卓・住田正幸

- ・第85回日本動物学会仙台大会におけるナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ポスター 展示動物学ひろば「重要な実験動物—ツメガエル」（2014年9月，東北大学，仙台市）

柏木昭彦・柏木啓子・花田秀樹・鈴木賢一・鈴木 厚・竹林公子・古野伸明・田澤一朗・倉林 敦・中島圭介・小林里美・竹中純子・杉原麻美・山本 卓・住田正幸

- ・第37回日本分子生物学会におけるナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ポスター 展示「近交系ネッタイツメガエルを用いた生命科学」（2014年11月，パシフィコ横浜，横浜市）

鈴木 厚・竹林公子

- ・広島県立教育センター主催「第18回生物教材バザール」教材の提供および解説（2014年5月 東広島）

柏木昭彦

- ・第85回日本動物学会仙台大会2014シンポジウム ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）シンポジウム開催 「ネッタイツメガエル」——ツメガエルを用いた機能ゲノム科学研究—— オーガナイザー 共済：NBRP 広報企画ワーキンググループ（2014年9月，東北大学，仙台市） 講演者：山本 卓，荻野 肇，安岡有理，鈴木賢一

柏木昭彦・花田秀樹・柏木啓子・鈴木賢一・宮本 圭

- ・NBRP-メダカ・NBRP-ネッタイツメガエルによる合同国際トレーニングコース開催オーガナイザーおよび講師「Experimental techniques using medaka and Xenopus —— The merits of using both」（2014年9月，10月，基礎生物学研究所，岡崎市）

草場 信

・広島県教育委員会広島県教育センター主催 第18回教材生物バザール参加

○国際交流の実績

植木龍也

- ・インドネシア・ブライジャヤ大学での講師担当：生物系の大学院学生約40名に対し2014年11月10日に60分間の講義を行った。
- ・インドネシア・国立イスラム大学マラーン校での講師担当：生物系の学部学生約100名に対し2014年11月11日に60分間の講義を行った。

田川訓史

- ・台湾中央研究院と部局間国際交流協定を締結。
- ・米国ハワイ大学と共同でヒメギボシムシの再生研究を進めている。
- ・米国ハワイ大学, 米国JGI, 米国カリフォルニア大学バークレー校, 米国スタンフォード大学, 英国オックスフォード大学, 米国ライス大学, 米国ハーバード大学, 米国ベイラー医科大学, 台湾中央研究院, 独国ハイデルベルグ大学, 加国モントリオール大学と共にギボシムシのゲノム解析を進めている。
- ・カリフォルニア州立大学および台湾中央研究院と共同でヒメギボシムシに寄生するカイアシ類の研究を進めている。

坪田博美

- ・Estebanez 博士（スペイン・マドリッド自治大学）との蘚苔類の分子系統学的研究
- ・Mohamed 教授（ブルネイ・ブルネイ大学）および Yong Kien Thai 博士（マレーシア・マラヤ大学）との蘚類の系統・分類学的研究
- ・Seppelt 教授（オーストラリア・タスマニア博物館）および Dalton 氏（オーストラリア・タスマニア大学）とのオーストラリアの蘚苔類に関する分子系統学的研究

矢尾板芳郎・中島圭介

- ・ヴァージニア大学（米国）
研究テーマ：「ネットイツメガエルの遺伝子変異作製について」

住田正幸

- ・バン格拉デシュ農業大学（学部間協定締結校）
研究テーマ：「バン格拉デシュのカエル類の種多様性と遺伝的多様性に関する研究」
- ・国立台湾師範大学台湾
研究テーマ：「アジアの両生類の多様性」

鈴木 厚

- ・米国エネルギー省, カリフォルニア大学, テキサス大学ほか
研究テーマ：「アフリカツメガエルゲノムプロジェクト」
- ・英国ポーツマス大学, 英国ガードン研究所および米国ウッズホール海洋生物学研究所
研究テーマ：「ネットイツメガエルリソースの系統解析」
- ・英国ポーツマス大学および米国ウッズホール海洋生物学研究所
研究テーマ：「国際ツメガエルリソースの国際拠点形成」

倉林 敦

- ・ブラウンシュバイク工科大学（ドイツ）・ビショップ博物館（アメリカ）・南オーストラリア博物館（オーストラリア）
研究テーマ：ヘビからカエルへの遺伝子水平伝播
- ・ブラウンシュバイク工科大学（ドイツ）・コネチカット大学（アメリカ）・ノースウェスト大学（南アフリカ）

- 研究テーマ：フクラガエルが生殖行為に用いる糊状物質の解明
- ・ブラウンシュバイク工科大学（ドイツ）
- 研究テーマ：両生類皮膚粘液に存在する細菌類の進化と分布の解明
- ・ビショップ博物館
- 研究テーマ：パプアヒメアマガエルの種インベントリー
- ・中国科学院成都生物研究所
- 研究テーマ：無尾類のミトコンドリアゲノムの進化

竹林公子

- ・英国ポーツマス大学および米国ウッズホール海洋生物学研究所
- 研究テーマ：「国際ツメガエルリソースの国際拠点形成」

三浦郁夫

- ・キャンベラ大学（豪州）Dr. Tariq Ezaz 性決定と性染色体の進化に関する研究
- ・成都生物学研究所（中国）Dr. Xiaomao Zeng ツチガエルの進化に関する研究
- ・Leibniz-Institute of Freshwater Ecology and Inland Fisheries - IGB Germany Dr. Matthias Stöck カエルの系統進化に関する研究

高橋秀治

- ・日米アフリカツメガエルゲノムコンソーシアム
- ・スウェーデン Ludwig Institute for Cancer Research Ltd (Jan M. Stenman)
- ・米国カリフォルニア州立大学アーバイン校 (Ken Cho)

○その他

- ・PLANT CELL 誌に発表した GAF 1 の研究が RIKEN Research で紹介された。（高橋陽介，深澤壽太郎，伊藤 岳）
- ・一般からの問い合わせや写真および情報提供を行った。内訳は，テレビ朝日のいきなり！黄金伝説へアメフラシ画像・動画，テレビ朝日ミラクルナインへウミサボテン画像，金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設へスズメガイダマシ資料「瀬戸内海の生物相 II p.207」，東北大学へホヤ類の被囊微細構造に関する情報提供，実験医学2014増刊驚愕の代謝システム（p.123-129）へホヤ類に関する情報提供を行った。（田川訓史）
- ・宮島自然植物実験所 施設紹介：NHK 趣味の園芸（2月号）2015年1月。
- ・原著論文「Highly efficient gene knockout by injection of TALEN mRNAs into oocytes and host transfer in *Xenopus laevis*. Biology Open, 4 (2): 180-185.」が *Xenopus* 生物学の国際総合情報ホームページ (Xenbase) の表紙に採用された（矢尾板芳郎・中島圭介）
- ・TV 番組写真提供・取材協力：2件（テレビ朝日『怒り新党』，テレビ東京『テレビ東京ありえへん∞世界』）（倉林 敦）

(5) 地球惑星システム学専攻

○受賞実績

- ・張友君 日本高圧学会 学生海外発表奨励金（平成26年10月24日）
- ・梅田悠平 第55回高圧討論会 ポスター賞（平成26年11月23日）
- ・和田菜奈絵 2014年度同位体比部会 学生発表賞（平成26年11月28日）
- ・張友君 広島大学理学研究科長表彰（平成27年3月23日）

○講演会・セミナーなどの開催実績

- ・日高洋（世話人）広島大学全学FD講演会「博士人材の活躍の場とこれからの人材養成」（平成26年10月9日）
- ・日高洋 学内・学外連携による教育力強化の取り組み（高知大学）（平成26年11月20日）

- ・日高洋 Introduction of Hiroshima University and our innovation program for collaboration (プレジデンシー大学) (平成26年11月24日)
- ・白石史人(世話人) 炭酸塩コロキウム2015 (平成27年3月6-8日)
- ・安東淳一, DAS Kaushik (世話人) Seminar on study of rocks -Tectonics, Rheology and Chronology- (平成27年3月22日)

○社会への還元実績

- ・宮原正明 広島県立広高等学校 模擬授業講師 (平成26年10月16日)
- ・早坂康隆 広島市こども文化科学館 日本科学技術振興財団主催「青少年のための科学の祭典」指導講師 (平成26年10月25-26日)
- ・須田直樹 広島県科学オリンピック第2回科学セミナー「重力計で測る重力の高さ変化」(平成26年7月19日)
- ・須田直樹 広島県科学オリンピック第3回科学セミナー (平成26年11月23日)
- ・須田直樹 広島県科学オリンピック第4回科学セミナー (平成27年1月31日)
- ・安東淳一 北九州市立自然史歴史博物館室内講座「地球のマグマと平尾台の石」(平成26年5月11日)
- ・佐藤友子 広島大学附属高等学校 フロンティアサイエンス講義 放射光を用いた地球内部構造の解明 (平成26年10月2日)
- ・片山郁夫 出張授業 米子西高校・米子白鳳高校「地熱発電のしくみとその可能性」(平成26年10月22日)
- ・片山郁夫 広島大学夕学講座「地球の根源は水である」(平成26年10月31日)
- ・片山郁夫 岡山大学耐震安全安心センター公開講座「粘土鉱物の摩擦特性とプレート境界の固着度」(平成27年3月17日)
- ・坂口綾 広島大学夕学講座「科学が明かすヒロシマ・フクシマのいま」(平成26年4月24日)

○新聞報道など

- ・片山郁夫 読売新聞「金星内部に潤滑層存在」(平成26年4月11日)
- ・片山郁夫 北海道新聞「金星にはなぜプレート運動がない？」(平成26年5月12日)
- ・片山郁夫 日本海新聞「米子西・米子白鳳高校で特別授業」(平成26年10月25日)
- ・片山郁夫 中国新聞 オピニオン面「地熱発電 世界3位の潜在力生かせ」(平成27年2月18日)

(6) 数理分子生命理学専攻

○特許

- ・山本 卓, 佐久間哲史, 八木祐介, 大川恭行, 中村崇裕. PPRモチーフを利用したDNA結合性タンパク質およびその利用. 国際出願 (PCT/JP2014/061329, 平成26年4月22日)
- ・山本 卓, 佐久間哲史, 落合 博, 松浦伸也, 宮本達雄. DNA結合ドメインを含むポリペプチド. 国際出願 (PCT/JP2014/062518, 平成26年5月9日)
- ・山本 卓, 鈴木賢一, 佐久間哲史, 坂根祐人. 核酸挿入用ベクター. 国際出願 (PCT/JP2014/079515平成26年10月24日)
- ・イネ形質転換体及びその作製方法. 島田裕士, 坂本 敦. 特開2014-171451 (P2014-171451A).

○共同研究

分子生物物理学研究グループ

- ・(株)オプトクエスト: 酸化LDL検出法の開発に関する受託研究の実施

自己組織化学グループ

- ・「自己組織化としての皮膚バリア機能の数理的解析」, JST CREST, 長山雅晴 (代表,

- 金沢大理), 傳田光洋 (資生堂), 中田聡
- ・資生堂との共同研究, 中田聡
- ・「安価な永久磁石と光源で麹菌の生育をよくする方法」, 広島大学新技術説明会 2014 in 広島一県内5大学連携, 藤原好恒

生物化学研究グループ

- ・泉 俊輔, (株)島津製作所との共同研究
- ・泉 俊輔, 長岡香料(株)との共同研究

分子遺伝学研究グループ

- ・山本 卓, (株)花王との人工ヌクレアーゼ作製に関する共同研究
- ・山本 卓, (株)JA 全農との人工ヌクレアーゼ作製に関する共同研究
- ・山本 卓, 日本ハム株式会社とのゲノム編集の基礎研究に関する共同研究

分子形質発現学研究グループ

- ・共同研究 広島大学, 日本原子力研究開発機構, みのる産業「イオンビーム照射によるオオイタビ変異体 KNOX への低温耐性の付与」

現象数理学研究グループ

- ・西森拓「極小 RFID を利用したアリの労働分化自動計測システムの構築と解析」に関する共同研究契約締結：締結先 株式会社エスケーエレクトロニクス

○その他

- ・山本 卓・坂本尚昭・佐久間哲史：京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) との共同研究
- ・山本 卓：「世界をリードする人工ヌクレアーゼ研究拠点の形成」事業 (H25～H29) の実施
- ・山本 卓・鈴木賢一・佐久間哲史：農業資源生物研究所の瀬筒研究グループと共同研究で進めていたゲノム編集を利用した新しい遺伝子ノックイン法 (PITCh システム) の開発に関するプレスリリース (2014.11.17)
- ・山本 卓・佐久間哲史：理研・キリン・大阪大学と進めていたジャガイモでのゲノム編集の研究成果をプレスリリース (2014.09.11)
- ・山本 卓：朝日新聞 (科学の扉)「狙い定めてゲノム編集」(2014.06.30)
- ・山本 卓・鈴木賢一・佐久間哲史：中国新聞「遺伝子組み換え新技術 緑色のカイコ生成」(2014.11.21)
- ・山本 卓・鈴木賢一・佐久間哲史：日本経済新聞「有用遺伝子, 細胞に導入 広島大, 効率高める」(2014.11.25)
- ・山本 卓・鈴木賢一・佐久間哲史：日経バイオテク ONLINE「広島大がゲノム編集技術を用いた新規遺伝子ノックイン法 PITCh システム, 10月末に国際特許出願」(2014.11.27)
- ・山本 卓：日本経産業新聞, テクノトレンド「遺伝子組み換えが進歩, 高効率でカイコにも導入」(2015.01.05)
- ・山本 卓・佐久間哲史：科学新聞, 「ミジンコ遺伝子の機能解析に必要な遺伝子破壊法を確立」(2015.01.19)
- ・山本 卓・佐久間哲史：日経バイオテク ONLINE「明治大と広島大など, ゲノム編集技術「PtFg TALEN」で糸状菌の標的遺伝子改変効率100%」(2015.02.26)
- ・中坪(光永)敬子：第3回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査「動物学会会員データ解析報告書 ver.1」公益社団法人 日本動物学会 第6期男女共同参画委員会 (2014.09.11)
- ・芦田嘉之, 講談社の会員制雑誌「HBR」(ヘルス&ビューティ レビュー) に4本の記

事掲載

- ・ 泉 俊輔, 広島大学理学研究科ペプチドマスフィンガープリンティング講習会
- ・ 泉 俊輔, 岡山県教育委員会理科教員研修会
- ・ 泉 俊輔, 広島大学自然科学研究支援開発センター質量分析講習会
- ・ 泉 俊輔, 出前講義 (広島大学付属高等学校, 岡山県立玉島高等学校, 広島県立国泰寺高等学校, 安田女子大学付属高等学校, 広島県祇園北高等学校)
- ・ 泉 俊輔, 明治大学非常勤講師「科学リテラシー概論」
- ・ 泉 俊輔, 「科学の甲子園ジュニア」広島県代表選抜会における科学講演・講習会
- ・ 泉 俊輔, 「ミニシンポジウム2014 in 鹿児島～生き物の群れ行動に学ぶ新しい自律的協調システムの開拓～」を鹿児島大学にて開催 H26.9.12 <西森 拓・中田 聡>
- ・ 泉 俊輔, 「～昆虫の群れ行動に学ぶミニシンポジウム～」を広島大学にて開催 H27.3.14<西森 拓・中田 聡>
- ・ 飯間 信: ミドリムシ生物対流の研究が日本流体力学会学会誌「ながれ」第33巻 (2014) において, 紹介される (筆頭著者は指導学生の庄司江梨花 (M2))
- ・ 飯間 信: ミドリムシ生物対流の研究が JPSJ News and Comments において紹介される (“Localized Ordered Pattern in a Hybrid System of Hydrodynamics and Collective Motion” JPSJ News Comments 11, 06 (2014))

2 各種表彰等受賞者

(1) 教 員

専攻名等	氏 名	賞 の 名 称	授 与 者	授与年月日
数学専攻	教 授 松本 眞	市村学術賞 功績賞	公益財団法人 新技術開発財団	H26. 4.18
		藤原洋数理学賞 大賞	藤原洋数理学賞実 行委員会委員長	H26.10.26
化学専攻	教 授 江幡 孝之	ロシア連邦オレンブルグ国立大学名 誉教授	ロシア連邦オレンブ ルグ国立大学	H26.10.31
生物科学専攻	特任助教 武藤 彰彦	日本遺伝学会第86回大会 Best Papers (BP) 賞	日本遺伝学会 会長	H26.12.24
数理分子生命 理学専攻	教 授 坂本 敦	乾燥地科学共同研究発表賞	鳥取大学乾燥地研究 センター 共同研究 委員会委員長	H26.12. 7
	特任助教 渡邊 俊介			

(2) 学 生

①広島大学長表彰

学科・専攻	氏 名	表彰に値すると認められる理由	授与年月
化学科	平野 喬平 (学部4年)	学術研究活動において, 特に顕著な業績を挙げた。	H27. 3
化学専攻	菅原 峻 (博士課程後期3年)	学術研究活動において, 特に顕著な業績を挙げた。	H27. 3

②エクセレントスチューデントスカラシップ表彰

専攻	氏名	表彰に値すると認められる理由	授与年月
数学専攻	福井 敬祐 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	渡辺 朋成 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
物理科学 専攻	川村 翔人 (博士課程前期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	大久保 翼 (博士課程後期1年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	照喜名 歩 (博士課程後期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
化学専攻 生物科学 専攻	平尾 岳大 (博士課程後期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	森島 史哉 (博士課程後期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	菅原 峻 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
生物科学 専攻	井上 侑哉 (博士課程後期1年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	有本 飛鳥 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
地球惑星 システム専攻	澤井 みち代 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
数理分子 生命理学 専攻	吉井 美優 (博士課程前期1年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12
	坂根 祐人 (博士課程前期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H26.12

③理学研究科長表彰

専攻	氏名	表彰に値すると認められる理由	授与年月
化学専攻	菅原 峻 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H27. 3
生物科学 専攻	廣瀬 健太郎 (博士課程後期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H27. 3
地球惑星 システム専攻	張 友君 (博士課程後期3年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H27. 3
数理分子 生命理学 専攻	庄司 江梨花 (博士課程前期2年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H27. 3
	中出 翔太 (博士課程後期1年)	学術研究活動において特に優秀な成績を修めた。	H27. 3

④理学部長表彰

学科	氏名	表彰に値すると認められる理由	授与年月
数学科	竹内 理人 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
	甲斐 杏奈 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
物理科学科	岡田 千穂 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
	李 智蓮 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
化学科	平野 喬平 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
	下山 大輔 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
生物科学科	池谷 淳 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3
地球惑星 システム学科	横田 修宏 (学部4年)	学業成績において特に優秀な成果を修めた。	H27. 3

⑤学会賞等

学科・専攻	氏名	賞の名称	授与者	授与年月日
数学専攻	風呂川 幹央 (博士課程後期2年)	Award for Presentation Excellence, National Institute for Mathematical Sciences (NIMS)	Chairman of the workshop	H26. 7.25
	福井 敬祐 (博士課程後期3年)	行動計量学会岡山地域部会広島大学 学生発表優秀賞	行動計量学会会長	H27. 3.14
物理科学科	水流 大地 (学部4年)	Best Oral Presentation Award; 2014 Japan-Korea Student Workshop, (Hiroshima University & Pusan National University, 11-13 July, 2014, Higashi-Hiroshima, Japan.)	JK Student Workshop Organizing Committee, Chair of the workshop	H26. 7.12
	李 智蓮 (学部4年)	International Conference on Topological Quantum Phenomena Poster Preview Award	International Conference on Topological Quantum Phenomena Chair of the Conference	H26.12.19
物理科学専攻	河野 貴文 (博士課程後期1年)	5th ASTRO-H Summer School ポスター賞	Chairman of 5th ASTRO-H Summer School	H26. 7. 8
	枝寛 育実 (博士課程前期1年)			
	梅本 崇之 (博士課程前期1年)	Best Oral Presentation Award; 2014 Japan-Korea Student Workshop, (Hiroshima University & Pusan National University, 11-13 July, 2014, Higashi-Hiroshima, Japan.)	JK Student Workshop Organizing Committee, Chair of the workshop	H26. 7.12

学科・専攻	氏名	賞の名称	授与者	授与年月日
物理科学専攻	川上 修平 (博士課程後期2年)	The 10th Japan-Korea Conference on Ferroelectronics (JKC-FE10) Excellent Presentation Award for Students	Chairman of JKC-FE10	H26. 8.19
		第28回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 学生発表賞	日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム組織委員長	H27. 1.12
	竹田 翔一 (博士課程後期1年)	The 10th Japan-Korea Conference on Ferroelectronics (JKC-FE10) Excellent Presentation Award for Students	Chairman of JKC-FE10	H26. 8.19
	引地 奈津子 (博士課程前期2年)	Poster Presentation Award; The Summer School on Ferroelectricity (Future Ferroelectrics 2014)	Chairman of Future Ferroelectrics 2014	H26. 8.20
	藤井 香奈子 (博士課程前期2年)	公益社団法人日本金属学会 水素化物に関わる次世代学術・応用展開研究会 優秀ポスター賞	公益社団法人日本金属学会 水素化物に関わる次世代学術・応用展開研究会	H26.10.22
化学科	下山 大輔 (学部4年)	第30回若手化学者のための化学道場 優秀ポスター賞	第30回若手化学者のための化学道場実行委員長	H26. 8.30
	久木田 友美 (学部4年)	第4回CSJ 化学フェスタ2014 優秀ポスター発表賞	公益社団法人日本化学会 平成26年度会長	H26.11.10
化学専攻	森島 史弥 (博士課程後期1年)	第30回化学反応討論会 ベストポスター賞	第30回化学反応討論会 実行委員長	H26. 6. 5
	門築 ちひろ (博士課程前期2年)			
	金田 琢磨 (博士課程前期1年)			
	鬼塚 侑樹 (博士課程前期1年)			
	吉富 翔平 (博士課程後期1年)	10th Korea-Japan Symposium on Frontier Photoscience Best Poster Award	Korean Society of Photoscience Center for Multidimensional Organic Materials (CRI) BK21 Plus Department of Chemistry and Nano Science	H26. 6.23
	菅原 峻 (博士課程後期3年)	XXVI International Conference on Organometallic Chemistry Student Poster Prize	The chairman of ICOMIC 2014 有機金属化学に関する国際会議組織委員長	H26. 7.18
	森迫 祥吾 (博士課程前期2年)	第49回有機反応若手の会 優秀ポスター賞	第49回有機反応若手の会 実行委員長	H26. 7.30
		第30回若手化学者のための化学道場 最優秀ポスター賞	第30回若手化学者のための化学道場実行委員長	H26. 8.30
	石川 朋己 (博士課程前期2年)	The Royal Society of Chemistry Tokyo International Conference 2014 Analyst Poster Prize	The Royal Society of Chemistry Executive Editor	H26. 9. 5
山崎 祐太朗 (博士課程前期1年)	第25回基礎有機化学討論会 ポスター賞	基礎有機化学会会長	H26. 9. 9	

学科・専攻	氏名	賞の名称	授与者	授与年月日
化学専攻	金子 政志 (博士課程後期2年)	2014日本放射化学会年会・第58回放射化学討論会 若手優秀発表賞	2014日本放射化学会年会・第58回放射化学討論会 実行委員会委員長	H26. 9.13
	玉木 愛梨 (博士課程前期1年)	24th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (FJS2014, 第24回日仏医薬精密化学会) the Poster prize (ポスター賞)	the President of the French-Japanese Association of Chemistry (日仏化学協会会長)	H26. 9.23
	鬼塚 侑樹 (博士課程前期1年)	第8回分子科学討論会 分子科学会優秀ポスター賞	分子科学会会長	H26.10.28
	今田 康公 (博士課程前期1年)	第41回有機典型元素化学討論会 優秀講演賞	第41回有機典型元素化学討論会 実行委員会委員長	H26.11.29
	森島 史弥 (博士課程後期2年)	第11回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム The Best Student Presentation Award	第11回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム 委員長	H26.12.13
	灘本 昂平 (博士課程前期1年)			
	住田 聖太 (博士課程後期1年)	第11回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム Student Award	第11回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム 委員長	H26.12.13
	森迫 祥吾 (博士課程前期2年)			
肖 芳 (博士課程前期2年)				
生物科学専攻	三島 由佳 (博士課程前期1年)	中国四国植物学会優秀発表賞 ポスター発表部門	中国四国植物学会会長	H26. 5.10
	庄田 佐知子 (博士課程前期1年)			
地球惑星システム学専攻	張 友君 (博士課程後期3年)	日本高圧力学会 学生海外発表奨励金	日本高圧力学会会長	H26.10.24
	梅田 悠平 (博士課程後期1年)	第55回高圧討論会 ポスター賞	日本高圧力学会会長	H26.11.23
	和田 菜奈絵 (博士課程前期1年)	2014年度同位体比部会 学生発表賞	2014年度同位体比部会 実行委員会委員長	H26.11.28
数理分子生命理学専攻	曾我部 芳美 (博士課程前期1年)	第65回コロイドおよび界面化学討論会 ポスター賞	公益社団法人日本化学会 コロイドおよび界面化学討論会 部会長	H26. 9. 4
	針田 光 (博士課程前期1年)	第9回日本磁気科学会年会 学生ポスター賞	日本磁気科学会会長	H26.11.14

あ と が き

この度、「平成26年度広島大学大学院理学研究科・理学部自己点検・評価実施報告書」を刊行する運びとなった。理学研究科評価委員会委員をはじめとする多くの教職員の努力によるところであり、皆様には深く感謝する次第である。平成26年初春に確定した「ミッションの再定義（理学分野）」には、「理学の教育研究を先導する大学の一つとして基礎科学における独創的で多様な教育研究活動を発展させ、基礎科学をはじめとする諸分野で先導的主導的役割を担う人間性豊かな人材を育成する」と記載されており、報告書から、その実現のために教職員が日々ご尽力されていることが伺える。

具体的には、「教育の国際化」と「研究力の強化」の2つの目標に向けて様々な取組を継続して着実に進めていることが読み取れる。海外留学生の博士課程進学の新増傾向は大変好ましい変化である。また、Nature, Science 等の先導的な国際専門誌で多くの研究成果が発表されたのもその証左である。さらに、研究大学強化促進事業により全学支援を受けている4つの自立型研究拠点、インキュベーション研究拠点での研究活動は着実な成果が確認できる。しかしながら、第3期中期目標期間中も、これまでの教育研究の活動実績が継続されることを確信しながらも気がかりなことも多い。

昨年度の楯 真一・理学研究科評価委員会委員長は「あとがき」において、「大学改革の推進では、私たちは相応の負担を担う覚悟が必要である。しかし、このチャンスを生かすことで、広島大学理学研究科を国際的にも正当に高い評価を得る研究組織として強化することができる。第3期に向けて様々な改革や改編を進めることになるが、構成員は自己点検評価を通して冷静な将来構想を共有し、来たる改革に向け積極的かつ着実に準備を進めてゆくことが求められる。」と閉めくくられた。一年を経た今、我々はこのメッセージにどの程度、応えられているであろうかと自問する。

全学に目を移せば、文部科学省の強い指導のもと推進されてきた国立大学改革構想は、広島大学本部棟での机上の議論から、今まさに、その実現に向けて構成員の現場へと駆け足で忍びよっている。「教員ユニット、そんなの初めて聞いた。誰が決めた?」「A-KPI、それ何?」「学部一貫の英語プログラム、聞いたことないぞ」などと、つい最近、複数の教員から耳にした言葉である。諸氏、時、既に遅し。ここ数年をかけて準備されてきた「世界トップ100入を目指す総合研究大学構想」は、着実に歩を進めつつある。上述した楯 前委員長の「相応の負担を負う覚悟が必要である」を換言すると、「全ての構成員が傍観者から当事者になるべきである」となろう。

これまで、長い間、日本の大学は、日本国憲法第23条に規定された「学問の自由」のもとで、その自治が尊重され、教授会には人事権が付与されてきた。しかし、国主導の大学改革のなかで時代は様変わりし、教育基本法は改正され、今や人事権の発動は大学役員会の専権事項となってしまった。この変化は、当然のことながら、大学の自治そのものを変質させるものではないが、学部・研究科の教育・研究体制とその内容について、先が見通せない。

本年度当初の経営協議会学外委員と学長との意見交換会の席上、「学長のガバナンスに構成員のコンセンサスなど不要です。あなたがお決めになれば宜しいこと」。「広島大学はSGUと財政支援、いずれもトップ型を選択し、世界トップ100入を目指すとしています。これは、大変なこと。覚悟が必要と思いますが、教職員一同、その思いを共有できているのですか?」と、経営協議会委員から、学長の「ガバナンスの重要性と徹底」が説かれた。「100年後にも世界で光り輝く大学でありたい」とする越智学長の弁に、さらに外部識者から拍車がかかる。「今、行動しなければ10年後の広大はない」とまでの危機感が大学執行部には共有されているとの感触はある。しかし、全学はおろか我が理学研究科・理学部の構成員にそれが共有されているかは大きな疑問である。

筆者が、特に危機感をもつのは、理学研究科は今後10年間に現教員の約30%にあたる50名程度の教授を新たに任用する点である。全学では、当該数値は現在の80%となり、これを海外で1年以上の留学経験を有する所謂、「外国人等教員」で充足することとし、SGUの数値目標の達成のため、新規に任用する教員の3人に2人がこれに該当する教員とする計画である。また、A-KPI値は今後10年間に現在の3倍が目標であるので、A-KPI値の低い教授の後任は、より高くなるのが確実な教授を充当することになると予想される。しかも、英語での授業能力が必要で、且つ、国際公募である。また、教員ユニット毎のA-KPI目標値の設定も要求され検証・改善の過程が厳しく審査される可能性が高い。もし、各専攻、各研究分野の基本的考え方が、これまで蓄積してきた教育研究の継続性が大切であるとして現状を維持しようとしても、このような状況にあっては、現教員はかなり厳しい人事選考競争にさらされるという重い課題が生ずる。教育研究の継続性が危ぶまれる。また、若手教員・研究者の育成にしても、国内でポスドクを経験するのではなく、少なくとも1年以上の留学経験を早い段階から積ませることが必要となる。このような観点から、今後10年間の人事構成上の問題とミッションの再定義にある目標達成とを如何に調和させるかを早急に検討することが喫緊の課題と認識するが、教員諸氏の思いはいかがであるか、憂慮する。このように、大学の教育、人事、及び研究の各戦略を考慮すると、平成28年4月に始まる第3期中期目標期間はまさしく激動の時期であると言えよう。

では、教員は、A-KPI値の目標をクリアすべく論文数を稼ぎ、インパクトファクターの高い国際誌へ論文を掲載し、留学生も多く受入、教育することに邁進するだけでいいのであろうか？これらは、100年後にも光り輝く大学の教員に求められている要件ではあるが、科学の健全な発展のためには忘れてはならないことがある。それは、科学研究の社会的責任を全うし社会から信頼を得ることが大切である点である。社会的責任を良く理解し、健全な科学の発展に寄与する科学者には当然、修養しておくべき心得がある。先般、全学的に研究倫理教育の必要性と徹底が図られてきたのは、そのためである。たとえ、組織の一人であっても、功を焦って社会の信頼を裏切ることをやってはならないのである。一人の汚点は科学研究全体の汚点として断罪されるのは自明であり、財政的な点からも科学の進歩に甚大な影響が及ぶことをよく認識いただきたいと願う。

第3期を迎え大学改革は益々その勢いを加速するに違いない。色々な外的要因が加わり様々な改革や改組・改編が待ち構えていることも想定範囲内である。構成員は、本報告書にある自己点検・評価により、現在をしっかり見据え、ミッションの再定義と整合性を保ちながら今後の大学改革においても、基礎研究を牽引する中心的部局の一つとして、積極的に関与していくことが肝要である。

平成27年12月

理学研究科評価委員会委員長
小原政信

平成27年度 理学研究科評価委員会委員

委員長 小 原 政 信 (副研究科長, 生物科学専攻, 附属理学融合教育研究センター・教授)
若 木 宏 文 (数学専攻・教授)
滝 本 和 広 (数学専攻・准教授)
圓 山 裕 (物理科学専攻・教授)
大 川 正 典 (物理科学専攻・教授)
藤 原 照 文 (化学専攻・教授)
山 本 陽 介 (化学専攻・教授)
山 口 富美夫 (生物科学専攻・教授)
濱 生 こずえ (生物科学専攻・准教授)
関 根 利 守 (地球惑星システム学専攻・教授)
片 山 郁 夫 (地球惑星システム学専攻・教授)
中 田 聡 (数理分子生命理学専攻・教授)
西 森 拓 (数理分子生命理学専攻・教授)
草 場 信 (附属施設: 附属植物遺伝子保管実験施設・教授)

14名

